

令和8年度小松市立安宅学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p><自治的活動の充実を図り、児童の自己指導能力を高める></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級や一人一人に向けて「どんな学校にしたいか」「どんなクラスにしたいか」「どんな自分になりたいか」目標を考えさせ、その実現に向けて振り返る場を設定し、自己調整を促す。 ・児童一人一人の良さや成長を認め、励ます温かな関わりを職員で意識する。 		
	<p><要支援児童への支援体制の充実を図り、児童の自己存在感を高める></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、特別支援教育支援員、生徒指導サポーター、心の相談員等の専門性を生かした支援体制を構築し、授業者や児童のニーズに応じ、効果的な支援を行う。 ・配慮が必要な児童の実態把握に努め、実態に応じた具体的な支援・手立てを検討するとともに定期的な検証と改善に取り組む。 ・保護者や関係機関と連携し、児童の特性に応じて組織的な支援を行う。 		
道徳教育	<p><道徳の授業を充実させ、自らつながり学ぶ子の育成に努める></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値に迫る授業を構想するために「授業構想シート」の活用の仕方を共通理解し、実践と交流を行う。 		
	<p><自らの生活をふり返り、体力向上と健康の増進に向けて主体的に行動する児童を育成する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題となっている運動特性の向上のための補助運動を授業で週2回以上取り組む。 ・学級担任と養護教諭が連携し、生活習慣（メディアとの付き合い方）や感染予防についての保健指導を行う。 ・学校保健委員会の事前生活アンケート、長期休業中にあたって生活カード、学期ごとのメディアチャレンジで自らの生活をふり返る機会を設ける。 		
情報教育	<p><ICTを活用し、児童も教師も自らつながり学び合う環境の整備に努める></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部とも連携し、生成AIの正しい利活用や危険性と情報モラル指導を徹底し、児童の情報活用能力を養う。 ・教員間の実践交流を行い、児童がICTを「自分の考えを表現するツール」として使いこなす授業実践を推進する。 ・校務のデジタル化に向けた研修を行い、事務作業・教材研究の効率化を図る。 		
	<p><自分で自分の身を守るという意識をもち、状況に応じた安全な行動がとれるようにする></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の安全について正しい知識をもち、場面に応じた行動をとることができるよう、児童会の企画や学級活動を通して継続的に指導する。 ・避難訓練や保護者への引き渡し訓練において、教職員や児童の防災意識を高める。学校の実情にあった教職員の動きを想定し共通理解した上で、児童が安全に避難できるよう指導する。 		
家庭・地域社会との連携	<p><学校・保護者・地域との効果的な連携を図る></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページ、tetoru等の媒体を効果的に活用し、学校の教育活動に関する情報を保護者や地域の皆様へ迅速かつ適切に提供する。 ・児童の健康や安全に関わる事案に対し、状況に応じた最適な手段で家庭や関係機関と密に連絡を取り合い、確実な情報共有と双方向の連携を図る。 ・各教科や総合的な学習の時間、クラブ活動等において、地域の専門的な人材を積極的に招き入れることで、地域社会と協働した豊かな学びの場を設ける。 		

学校関係者評価	
---------	--